

農業・農村の6次産業化

- 雇用と所得を確保し、若者や子供も集落に定住できる社会を構築するため、農業生産と加工・販売の一体化や、地域資源を活用した新たな産業の創出を促進するなど、**農業・農村の6次産業化を推進**。

農村に由来する様々な「資源」

- 農産物 [米:約866万トン(平成20年産)
野菜:約1,242万トン(H19)]

- バイオマス



食品廃棄物

[約1,900万トン(H18)]



林地残材

[約800万トン(H20)]

- 経験・知恵

- 自然エネルギー



太陽光



風力



水力

- 風景



- 伝統文化



等

農村の「資源」を活用し新たな事業に取り組みようとする「産業」

食品産業、観光産業、IT産業、
化粧品・医薬製造業、エネルギー産業 等

「資源」と「産業」を結びつけ活用

農業・農村の6次産業化

- 生産・加工・流通(販売)の一体化による付加価値の拡大

[産地ぐるみでの取組(複数チャンネルの確保等)
農業者による取組(多角化、複合化等)]

- 農業の生産性向上等

- 2次・3次産業による農業への参入

- 農業と2次・3次産業との融合による地域ビジネスの展開や新たな産業の創出

[バイオマス等地域資源を活用した新事業の創出
農商工連携の推進
再生可能エネルギー利用の推進 等]

連携・融合により、
新たな付加価値を創出

雇用の確保と所得の向上による
農村地域の再生・活性化

戦略的システムデザインによる活性化

☆努力は必ず報われる
何度もチャレンジして
仲間とチャンスを掴む
→奇抜なプレゼンテーション&味方を巻き込む。

☆仕事を成功に導く力
諦めずにできることから
自分のプランを実現
→場をつくり、賛同メリットを説く。評価軸を再考。

☆時間と労力をムダにしない前提
信頼感あるキーパーソン
としっかり連携
→決裁権を持つ人がその気にならないと進まない。

デザイン力

関係する人が利を
得られるロジック
=人が動くしくみ
＜マネジメント力＞

☆日本の組織を機能させるヒント
部分最適化ではなく
全体最適化が肝要
→断片化した縦と横のネットワークを繋ぎ、所得向上。

☆巻き込む人を楽しくさせる
最適化を踏まえインパクト
ある手を打つ
→一部のパフォーマンスでは何ら解決にならない。

☆今、取組んでいること
戦略的な地域設計で
まちを活性化
→「システムデザインマネジメント」の成功事例づくり。

「地域活性化」関連参考事例 (2010年9月作成)

「エミュー」の活用 (北海道網走市)

東京農業大学オホーツク校が中心となり、オーストラリアの国鳥である「エミュー」の生産を行い、食品・化粧品などの商品開発を通じた新規産業モデルを構築中

「農家蔵」の保存・活用 (青森県平川市)

NPO法人「尾上蔵保存利活用促進会」が中心となり、農業用の蔵を観光資源として活用し、グリーン・ツーリズムなどを展開

「高校生レストラン・まごの店」 (三重県多気町)

相可高校食物調理科生徒が運営する調理実習施設としてオープン。料理家を目指す高校生の夢を、建築家を目指す高校生が実現

「昭和の町」づくり (大分県豊後高田市)

商店街の街並みの「古さ」を逆手にとった「昭和30年代」をコンセプトとしたまちづくりを行い、観光客数の大幅なアップに成功

「学生による手作りライトアップ」 (秋田県秋田市)

秋田県内の歴史的建造物などのライトアップを、芸大の学生を中心に携帯ライトを用いて実施。今後、さらに一般市民を巻き込んだ取組を展開予定

「やねだん」 (鹿児島県鹿屋市串良町)

人口300人弱の柳田(やねだん)町内会が、公民館長の豊重哲郎氏を中心に、遊休農地を活用したサツマイモ栽培やそれを活用したオリジナル焼酎の販売などにより、行政に頼らない集落づくりを展開

「おいしが うれしが」 キャンペーン(滋賀県)

滋賀県農水産物の地産地消を進めるため、生産者だけでなく、飲食店、小売店、マスコミなど幅広い関係者を巻き込んだネットワークを形成

「高校と大学の連携」 (山形県米沢市)

山形大学工学部は、工業高校等を卒業し、地元企業に就職した若者を大学院に受け入れる制度を創設し、地域を支える人材を育成する取組を展開

「サン奄美」 (鹿児島県奄美市)

離島の女性グループが一口15万円×20人=300万円を出資し、有限会社「サン奄美」を設立。小規模農家から農産物を現金で買い取り、タケノコなどの地元特産物の加工販売などを実施

「町主導」の活性化 (島根県邑南町)

町役場が主導し、牛肉などのネット販売、直売所の運営、ケーブルテレビ局の開設などを行い、多面的な活性化に向けた取組を展開

道の駅による地域活性化 (栃木県小山市)

道の駅の店長として百貨店の職員を招き、民間のノウハウを活かした経営を行うとともに、他の職員のスキルをアップさせ、高い売上を達成

「小田原手形」 (神奈川県小田原市)

地域内の60店舗以上で割引サービス等を受けられる「小田原手形」を製作。あわせて、さらなる交流の拡大を目指し「小田原井」の開発・販売なども展開中

「夕日の里づくり推進会議」からの活性化 (宮崎県五ヶ瀬町)

開発すべきは、建物でなく地元の人の意識が重要。農村民泊として9軒が参加。地元産品を加工する女性部から株式会社が発足。海外からの小学生～高校生を年間約1500名受入れ。

とうもろこしに挑む 人口500人の村 (長野県平谷村)

人口500人の山間集落が、冷涼な気候を活かし、とうもろこしを栽培し、加工品などを販売

(プロフィール・参考図書等)



木村 俊昭
Kimura Toshiaki

農林水産省企画官
地域活性化伝道師
地域活性学会理事

行政職員としての当初からの目標：

- ① 産業文化を世界に向けて発信する・キラリと光るまちづくり
- ② まちに愛着心を持ちうる子供たちの育成・未来を担う人づくり

◆プロフィール

木村 俊昭 (きむら としあき)

昭和35年北海道生まれ。昭和59年に小樽市入庁。財政部、議会事務局、企画部、総務部を経て経済部。産業振興課長、企画政策室主幹。

平成18年から内閣官房・内閣府企画官。主に地域再生策の策定、地域と大学の連携、政府広報活動等を担当。地方再生戦略では九州圏・沖縄県を担当。内閣府経済社会総合研究所特別研究員。

平成21年から農林水産省大臣官房企画官。主に農林水産業を中心とした地域活性化、農商工連携等を担当。

平成22年4月から小樽市産業港湾部副参事(次長職)。主に中心市街地活性化、起業立地等を担当。

平成22年6月から農林水産省大臣官房企画官。地域活性化伝道師(国)。北陸先端科学技術大学院大学・東京農業大学非常勤講師ほか。

○取組活動例(小樽市)

自治体では、自治体総合計画、広域行政、産学官連携による新製品・新技術の共同研究開発、産業クラスター事業、異業種交流・連携事業、学生起業家の育成、ものづくり職人活動、職人展、全国・世界職人学会の設立、制作体験工房、新産業創出(地元資源を活用した新製品開発)、起業家創出と育成支援、キッズベンチャー事業の企画・推進、経営相談窓口の開設(金融・創業・経営革新等の相談)、自治体連携(産業振興関連)、地場企業と誘致企業との連携の場づくり(新製品開発)、企業立地 誘致活動、地域情報化、土地利用、新エネルギー事業などを企画・実践。

○著書等

『「できない」を「できる！」に変える』(実務教育出版)ほか

NHKプロフェッショナル「仕事の流儀 公務員 木村俊昭の仕事」DVD

○木村俊昭のブログ

<http://kimutoshi.jugem.jp/>

○地域活性学会

<http://www.hosei-web.jp/chiiki/>

木村俊昭、待望の新刊!

「できない」を「できる！」に変える
スーパー公務員・木村俊昭の
人と地域を元気にする仕事術
木村俊昭

提案し、実現する
人と会うことが全ての原動力になる。
自らも、自らも「できる!」で、人をやる気にさせる。
手紙やメールは相手に届く。それが次につながる。
どれだけの球を蹴ったかをゴールにしてみる。
誰かか見ていてくれることを忘れない。

「ダメだ…」と諦めるには、
まだ早い

NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」に出演!

2010年
1月16日
発売!!

「できない」を「できる!」に変える

実務教育出版・刊
定価 1470円(税込)

2010年1月中旬発売
(1月14日曜から店舗に並び始めます)

四六判、192ページ
ISBN978-4-7889-0779-9

お買い求めは、全国の主要書店およびネット書店で。
Amazon.com、楽天ブックス、ブックオフ、ピーターソンほかネット書店で予約受付中

人は、彼を「スーパー公務員」と呼ぶ。

仲間とともに、北海道小樽のまちおこしを成功に導いた一人のスーパー公務員、木村俊昭。木村は、およそ一般の公務員像からはかけ離れた情熱と行動力で、全国のまちおこしの助っ人として奔走する。そんな彼が、NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」では触れられなかったエピソード満載で伝える、「行動し始める勇氣」「自分が動き、人を動かすヒント」などなど。事なかれ主義、前例踏襲、縦割り、任せてもらえないもどかしさ……。そんな壁にぶつかっている、すべての働く人たちに!

【読書プロフィール】
1960年11月、北海道生まれ。1984年小樽市入庁。財政部、議会事務局、企画部、総務部、経済部を経て、産業振興課長、企画政策室主幹(プロジェクト担当)。2005年4月から内閣官房・内閣府企画官として、地域再生の策定・推進、「地域と大学の連携」、地域再生政策推進委員、政府広報活動のほか、地域再生に関する調査研究や講演活動などにも積極的に関与。2009年4月から農林水産省大臣官房企画官として地域の活性化、地域ビジネスの推進など、主に農林水産業を中心とした「地域と大学の連携」の策定を担当。

プロフェッショナル 仕事の流儀
公務員 木村俊昭の仕事

「ばかもの」が、うねりを起こす 公務員 木村俊昭の仕事

今、地域再生の知識として全国から引抜かれたこの公務員が、木村俊昭(48歳)だ。もともとは北海道・小樽市役所の職員。さまざまな奮闘のしの取り組みを成功させた手紙を買われ、内閣府の管理職として引き抜かれた。地域再生に生涯をさげ、「ばかもの」といわれるほどの情熱で突き進む。「無血公務員」木村俊昭の活躍に迫る。

2009年10月19日、NHK総合テレビで放送

出演：木村俊昭
脚本・演出：石坂史朗
原簿：藤村俊也

主題歌：「Progressive」/kinoh
挿入歌：「さよなら」
編曲：北原誠二・小室哲哉

ディクレー：池上真央 / 編曲：小室哲哉
制作：有楽町

特別映像：■スペシャルトーク ■オンライン紹介

制作：NHK

企業・団体 日本放送協会 制作：NHKエンタープライズ ©2010 NHK http://www.nhk.co.jp

V3.500MHz HDS-D1433 本編47分・特別映像8分 尺一巻 カラー STEREO MPEG-2 標準サラウンド

15.5cm MADE IN JAPAN 1488A

DVD VIDEO

4 988066 169649